

タスクシフトにどれだけ貢献できるか！



ここ10年を左右する活動となる

2019年
(令和元年)
夏季号

臨工連盟新聞

昨年6月に参院本会議「働き方改革関連法」が成立し、大企業では本年4月より施行されています。本法律制定の背景には高齢化社会への対応、外国人労働者の受け入れなどありますが、最も注視すべきは長時間労働の是正です。極めて大雑把に言うと時間外をし過ぎると、6か月以下の懲役または30万円以下の罰金が課せられます。医師には「高度プロフェッショナル制度」が適用され、5年間の猶予が与えられております。

昨年6月に参院本会議「働き方改革関連法」が成立し、大企業では本年4月より施行されています。本法律制定の背景には高齢化社会への対応、外国人労働者の受け入れなどありますが、最も注視すべきは長時間労働の是正です。極めて大雑把に言うと時間外をし過ぎると、6か月以下の懲役または30万円以下の罰金が課せられます。医師には「高度プロフェッショナル制度」が適用され、5年間の猶予が与えられております。

していることが、タスクシフト実現に向けた力になっていると確信しております。活動にご理解を示し、ご支援頂いている会員の皆様に心より感謝申し上げます。団体としては技士会と共に手を取り合っ

4月25日 臨床工学技士が誕生して以来歴史上初めての、厚生労働省医政局医事課による臨床工学技士の実際の業務内容把握のための施設見学が実施されました。目的の背景には、

大阪大学では先進臨床工学共同研究講座がすでに開設されていることから、後のヒアリングでは教育など養成課程についても話題となり、2021年に予定されているコアカリキュラムの見直しについても、見学の内容が検討材料になることをお話されました。

全国的に不足傾向にある麻酔科医のアシスタントとして臨床工学技士が補助業務を行う事で、医師の業務負担軽減だけではなくインシデントなど安全確保においても非常に高い貢献度があることを、病院長の古家先生が述べられました。後のディスカッションでは、法整備や通知など臨床工学技士の業務拡大について具体的に前進させる手法について討論させていただきました。



初の厚生労働省による業務見学会を開催

臨床工学技士の資質向上を求める議員連立報告会

議員連立報告会が、3月2日野田毅先生のお膝元である熊本県医師会館で行われました。

結果的には150名を超える盛大な会合となり、主催者側としてはホッと胸を撫で下ろしたところでした。講演

に先立ち、私の方からここに至るまでの概要をご説明させていただきました。改めて振り返りますと、自前の国会議員も存在せず国家資格取得者数も4万人そこそこ、就業者数は約その半分、連盟会員に至ってはさらにその7%台と、こんな状況でよく議員連盟が設立されたものだと思いがたながら感心してしまいます。合わせて私をはじめ熊本県の技士会員の皆様による、影ながらの努力が実を結んだものと心から感謝申し上げます。

臨床工学技士への期待、さらには昨今話題となっている韓国との諸問題と歴史的背景などを幅広く解説され、若い人も多数参加されていたが居眠りをする人は殆んど見受けられませんでした。

年頭所感でもありません。31年目を迎えた臨床工学技士は間違いなく曲がり角に差し掛かっており、リニューアルを模索する時期に来ていると感じます。そこへ降って湧いたように出現した話題が働き方改革で、その最も大きな目玉は時間外労働の上限設定です。年間2000時間を超える時間外労働を行っている医師が、全体の1割を超える2万人以上居るとされ、上限を超える時間外労働を行った場合には罰則規定まで設けられたことから、待ったなしの対策が求められているのです。



野田先生には懇親会にもご参加頂きました。マスコットキャラクターのシープリンを手になれ、にっこりと笑顔で写真撮影にに応じて下さいました！

高度専門的な技術や知識に關しても、医師のサポート役として相応しい存在になれると思っております。千載一遇とも言えるこの業務拡大の機会を逃さないよう、会員一人一人の意識強化とご協力を強くお願いする次第です。

元祖ゆるきやらの“くまもん”には敵いませんが、それに匹敵する私、山田の背後霊で許してください。

感謝の気持ちを形にしたいと本イベントを企画した熊本県では、今後もういぐいと全国を引っ張って行きたいと考えております。

再来年は熊本県で日本臨床工学会が開催される予定となっていますので、その時には良い成果物を引っ提げてこのようなイベントを再現したいと妄想している今日この頃です。

九州理事 山田佳央

名簿の作成について

連盟ではこの度、創設後初めて本格的な名簿の作成に着手致しました。政治活動への懐疑的な風潮や個人情報保護、公職選挙法の遵守、公務員など公な立場で勤務する方の立場など、安易な収集が困難な世相となっています。過去起きた様々な事例から規制が厳しくなり、このような風潮となっていると思われますが、そのことにより面倒くさい事には関わりたくないという理由で、自分の意思を示す一票を無駄にするのはもったいないと思います。

先日行われた第27回東京都臨床工学技士会では、武見敬三参議院議員（臨床工学技士の資質向上を求める議員連盟顧問）がご挨拶に来られました。武見敬三先生と言えば元医師会長で医療政策に強い影響を与えたご尊父の武見太郎先生が著名です。ご挨拶の中で、人口減少が進行する我が国では、今後AIなどの人工知能は間違いなく生活に深く浸透する。医療も例外ではなく臨床工学技士には強い期待を持っていると述べられました。

個人的には足掛け6年のロビー活動がようやく実を結び始め、武見先生のご来訪や東京都臨床工学技士会の会員様の意識の変化を実感することができ、ありがたい感謝の気持ちでいっぱいです。秘書の方が、皆で「ガンバローコールお願いできますか？」と打診されましたが、最後にドン引きしてお互いの空気が気まづくなつては…と懸念し、控えて頂くことを選択しました。聞けば他の会合でも控えることをお願いされることも増えているようで、時代なののでしょうか？一致団結して組織活動を強化するのは、なかなか難しい時代になっているような気がします。

掲題の話題に戻しますが、政治活動と選挙運動は異なります。選挙運動は、公（告）示日から投票日の前日までの期間中に、特定の候補者または特定の立候補者予定者の当選を目的として直接または間接的に投票を促す行為とあります。具体的には選挙ポスターが貼り出されている期間がこれにあたります

みんなでやればきっと変わる！

会員数6月末現在

1549名

志公会と語る夕べ

5月14日に、ホテルニューオータニ鶴の間で「威風堂々」と開催されました。

参加人数も平成29年3千人、昨年は3千6百人、ついに今年は4千5百人参加となり、芸能人の結婚披露宴もされる巨大会場が「朝の満員電車」状況です。東京都済生会向島病院の松田様と私、小林は人の波に流されつつ、ステージ上手に向かいます。

志公会は清和政策研究会に続く自民党内第二派閥で会員は57名です。ステージ両脇には各議員や第25回参議院選挙候補者の名前が書かれた幟が関ヶ原の合戦のごとくはためき、選挙戦を挑む呈を成しています。

今回の司会はスピードの参議院議員今井絵理子。会のスタートは安倍総理から挨拶が始まり、会メンバー57名が一人ずつ名前を呼ばれ壇上に上がります。そして、最後に呼ばれたのは志公会 麻生太郎会長です。当然、会長の挨拶があり

ますが、ここでは割愛。問題は、我々はこの志公会に何をしに来たのか？ 思い出作りにしかなません。そう臨床工学技士として爪痕を残す必要があるのです。もちろん参加費を支払い、参加時に名刺を残すことは最低条件です。ここはやはり、麻生会長と写真を撮らなければ参加した意味はない。志を高くもち、公を腹に収める」ごく周りに準備されている宴品には目もくれず行動を起こします。

そこで、最も重要なのは写真撮影の順番列に並ぶことができる「会場でのポジショニング」が重要になります。それが「ステージ上手」乾杯発声後2分間で勝負が決まります。ポジショニングがよくても、おぼちゃん、勘違い女性などルール無視の割り込みや、「皆様お集まりの上列にお並び」呼びかけ無視団体。人が最後には数人になっている？ 満員電車時に身動きが出来ない同

様状態など、ほぼパニック状態を絶え、ボミノ倒しになる寸前）、議員秘書やホテルマンのディフェンダーをかい

くぐる攻めが必要です。躊躇は負けを意味します。最後の壁は、女性団体が要注意。二人で麻生さんと撮りたい。わたしも」と一枚のはずが、複数枚撮影になり時間を要します。アディショナルタイムはありません。そして、何より重要なのは、撮影をしてくれる志公会议員の秘書。私に抜け目はありません。中西けんじ議員秘書をみつけ、挨拶後スマホを渡

しひたすら連写（通常一枚）。その至高の一枚がこの写真。

その後は議員名が書かれた幟をたよりに志公会议員とひたすら挨拶、名刺交換、写真をとります。大臣級や重鎮議員もこのときばかりはみな最後まで会場に滞在し時間を共有できます。まさに参議院選挙の前に我々も熾烈な戦いは始まっているそんな会であった事を報告させていただきま

す。我こそは次回参戦希望の方をお待ちしています。



厚労関係職種のメンツを懸けた戦いに 参院選・自民比例 (MEDIFAX webより)

間近に迫った参院選では、自民党の比例代表に厚生労働、特に医療、医薬品、介護に縁の深い関係者が多数、立候補を予定している。他の業界と比べても厚労関係者の数の多さは際立つ。「厚労関係の議員が増えて、発言力が高まるのは良いこと」（自民党厚労族議員）と肯定的な声もある一方、厚労関係の職種間のメンツを懸けた戦いになりつつあるとの見方も少なくない。

本紙の集計では、自民の比例代表で立候補が見込まれる厚労関係者は、▽衛藤晟一・元厚労副大臣▽石田昌宏・参院厚労委員長▽木村義雄・元厚労副大臣▽羽生田俊・党厚労部会長代理▽糸川正晃・元厚労政務官▽小川眞史・日本衛生検査所協会理事▽角田充由・全国老人福祉施設協議会理事▽田中昌史・日本理学療法士協会理事▽比嘉奈津美・日本歯科医師連盟顧問▽本田顕子・日本薬剤師連盟副会長▽山本左近・全国老人保健施設連盟政策委員長一の11人。

今回の参院選は、自民が大勝した2013年参院選の「反動」が予想されるほか、自民比例の2人は「特定枠」になるとみられ、当選を懸けた争いは激しくなりそうだ。

さらに野党から、いずれも医師の中で一定の知名度を持つ塩見俊次・元奈良県医師会長（立憲民主党）、梅村聡・元厚労政務官（日本維新の会）らが立候補を予定している。

選挙結果は「20年度改定」にも影響？

こうした状況を受け、元日本医師会副会長でもある羽生田氏を擁立する日本医師連盟は、特に危機感が強い。調剤報酬・薬価への圧力を懸念する薬剤師・医薬品業界や、近年、数が急増し、「リハビリ専門職による開業を認めてほしい」との声も出ている理学療法士業界などと比べ、医師は「政治に声を届けたいという切迫感が少ない」（医師会関係者）と見られているからだ。「立場に一定の安定感がある医師と違い、地位の確立に向け、さまざまな要望を持つ他職種はいわば『迫る立場』。一般には、追われる側よりも迫る側のほうが迫力がある」（自民関係者）との声も漏れる。

日医連の擁立候補では、13年に羽生田氏が24万9818票、16年に自見英子氏が21万562票を獲得している。今回の選挙でこの票数がどう変わるか、そして他職種と比べて票数が多いか少ないかが、医師会の今後の発言力に影響を及ぼす、との見方が関係者の間では強い。「参院選が終われば、秋から20年度診療報酬改定に向けた議論が本格化する。どの職種が推した候補が、どの程度の票数を獲得できたのか、改定にも微妙に影を落とすのではないか」（自民関係者）との声も出ている。

鬼木誠 政治フォーラム

6月12日憲政記念館で開催された鬼木誠衆議院議員の政治フォーラムに東京都の松田信也さんと2名で参加して参りました。

鬼木議員は福岡2区からの3期目の衆議院議員で臨床工学技士の在りかたを考える議員連盟の事務局次長に就任して頂いている自民党若手の将来有望とされる議員です。

会場には野田毅先生、自見はな子先生も発起人として参列していました。来賓の挨拶では、石原伸晃、山崎拓、野田毅先生、石田総務大臣、岩屋防衛大臣、山下法務大臣、その他とそうそうたる面々の挨拶が続きましたが、人脈としては山下拓の地盤を継ぐ関係で、近未来政治研究所（石原派）を中心に福岡関連、同期の山下法務大臣といった所でしょうか。

動物看護師の国家資格化にも中心的に尽力したとの事。学生時代から西日本銀行時代、現在もラグビーを続けているらしく、実直で、実行力のありそうなイ



メージは個人的にはとても期待できると感じました。少しの時間ですが、直接お話しさせて頂き、臨床工学技士の事もしっかり認識しており安心致しました。合わせて野田先生、自見はな子先生とも挨拶して参りました。翌日13日は参議院会館の講堂で開催された、小川かつみ議員企画のイヴ・ジネスト氏によるユマニチュード技術を使った認知症ケアについての講演を拝聴してまいりました。イヴ・ジネスト氏はユマニチュードの創始者で、個人的にはとても勉強になる興味深い講演でした。九州理事小峠博揮

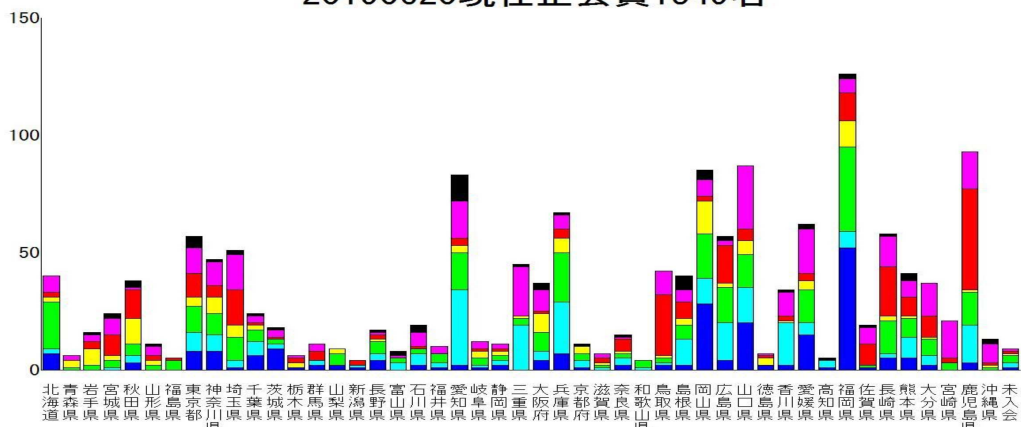
日臨工学会 意見交換会にて

、みちのくの地」岩手県盛岡市を会場に第29回日本臨床工学会「および 公益社団法人日本臨床工学技士会総会」が開催され、第1日目の19時から大会意見交換会として、ホテルメトロポリタン盛岡で 臨床工学技士の資質向上を求める議員連盟」会長代行をお勤め頂いている元厚生労働副大臣 参議院議員 木村義雄先生をお招きしてご挨拶を頂きました。

意見交換会では590名の会員が参加される中、木村先生からは今大会の盛会へご祝辞を頂いた後、社会保障に関する諸問題への取り組みや、臨床工学技士への期待と展望について御話を頂戴いたしました。また、今夏に予定されている参議院選挙に向け全国比例区の投票の書き方もご説明頂き、今後の臨床工学技士の発展を望むために、議連の先生方を我々臨床工学技士が一致団結して応援をしていこうと会場からたくさんの方々が送られ

ました。連盟では、学会や意見交換会に可能な限り国会議員や県知事、行政関係の方々をお招きし、臨床工学技士という職種を知っていただくと共に、印象に残る出合いの場を増やしていきたいと考えております。色々なお願いをする場合には、最終的には、顔の見える関係が役立ちます。北海道東北ブロック 理事 浦波 智

20190620現在正会員1549名



「福岡県臨床工学技士連盟が設立されました」

福岡県臨床工学技士連盟理事長 有田誠一郎

我々、臨床工学技士の未来を切り開き発展させていくためには、自ら積極的に行動していかなければいけません。そこで、福岡県では、2018年1月1日福岡県臨床工学技士連盟を設立しました。

福岡県臨床工学技士連盟は、資金管理団体や国会議員関係政治団体ではなく、“その他の政治団体として、設立届けと規約を福岡県庁選挙管理委員会に提出し、正式に政治団体となり、日本臨床工学技士連盟と協力共同し活動を行っていく事になりました。（福岡県の活動は全て日本臨床工学技士連盟と共有しています）

目的を達成するために、次の項目を福岡県臨床工学技士連盟の活動としました。

- ① 福岡県臨床工学技士連盟および日本臨床工学技士連盟会員入会促進
- ② 福岡県内で開催される政治会合への参加
- ③ 福岡県内で我々の要望に賛同する議員に対して選挙活動
- ④ 福岡県内の医療系連盟との関係構築
- ⑤ 福岡県臨床工学会や賀詞交換会への議員招聘および勉強会の開催

福岡県臨床工学技士連盟は、「数は力なり」と組織力を高めるために、入会金および年会費を0円とし、活動に賛同して頂ける方々を広く募っています。

現在の会員数は約250名です。入会方法は、「福岡県臨床工学技士連盟会員入会届」に必要事項を記入して頂き、福岡県臨床工学技士連盟事務局へ、メールもしくはFAXにて送付いただく事にしています。また、福岡県臨床工学会や各種セミナー開催時に、連盟ブースを配置して、技士会会員に直接口頭で連盟説明を行い入会促進しています。現在は、福岡県臨床工学技士連盟ホームページ（福臨工HPバナー内）から入会手続きが直接入力できるよう準備しています。

連盟に入会して頂く際に、入会届けや口頭で、選挙時に連絡等が行くことに了承して頂いていますので、選挙時の名簿作成や連絡に大変役に立っています。